

『チェンジ』と『チャレンジ』

新しい年度になりました。2・3年生の皆さん、進級おめでとうございます。

私は、昨年度1年間で、「とても早かった」と感じていますが、皆さんはどうですか。

今日は、皆さん一人ひとりに、新しい年度になったこの時期だからこそ、新しい気持ちになり、頑張ってもらうために『チェンジ』と『チャレンジ』について、話をします。

昨年度のことになりますが、卒業を前に3年生と面接を行いました。高校進学に向けた志願理由を書いた書類をもとに、約15分程度の面接です。初めて入る校長室、入試を前にした不安から、多くの3年生は緊張して面接に臨んでいました。大人でも、初めてのことや慣れていないことは緊張しますから、3年生が緊張するのは、当然です。

面接をする中で、私は、全員に必ず、質問した項目があります。

- 1 あなたが貫井中学生として、本校3年間で成長したところは、どんなことですか。
- 2 もう少し、努力すれば、成長したと思うことは、何ですか。

答えは、様々でした。部活動のこと、修学旅行やスキー移動教室、運動会や合唱コンクールでのできごと、友人をはじめとした人間関係のこと等。たくさんの3年間の体験から一つを選択して話すことは、難しいことなのかもしれません。

質問の答えを聴いて感じたことは、どの人も自信に溢れて、学校生活を過ごしてきたのではなく、『苦手なことに努力したから、できるようになった=チェンジ』と『新しい自分を作り出していきたい=チャレンジ』の精神をもって臨んだから、よい思い出やよい成果を得ることができた、という話が多かったということです。

「仲間をまとめるのは苦手だったのですが、部活動の部長をやって、仲間に支えられていることがわかりました。辛いこともあったけれど、3年間、続けてよかったです。」

「委員会活動を通して、周囲のために役に立つことは、自分自身もとても気持ちのよい毎日につながりました。」

「数学は、いまだに得意ではないですが、授業後に先生や仲間に教えてもらい、少し好きになりました。高校でも引き続き、得意になるまで、頑張りたいと思います。」

日常も頑張っていた卒業生でしたが、この面接では、普段の姿とはまた違った一面であり、新しい自分を発揮していた人がほとんどでした。

「教室はまちがうところだ(蒔田晋治さん作)」という詩があります。学校は、多様なことに臨み、途中苦しんだり、挫折したり、悩んだりしながら、答えを探しあてるところです。

新しい年度を迎えて、昨年度以上に頑張りたいと皆さんも新しい目標をこれから決めて歩いていくことと思います。卒業した3年生のように、多くのことに『チェンジ』と『チャレンジ』を意識して臨んでいきましょう。そしてここにいる全員が、新しい自分を作り、実りある1年にしていくことに期待しています。